

質問日	令和2年3月9日(月)		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	公明党	議席番号	19	氏名	丸 英 之
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 観光を主要産業に	<p>平成30年4月改定の浜松市観光ビジョンにおいて、「観光が地域の持続的発展を支える主要産業に位置づけられ、多様な主体による観光地域づくりにより市民が愛着や誇りを持てる都市」を目指す姿として、観光関連産業の主要産業化【地域が稼ぐ力の強化】をうたっている。</p> <p>また、施政方針の中で、総合戦略：持続可能で創造性あふれるまちとして、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機会を捉え、“世界に誇る観光地域づくり”をさまざまな地域資源を活用して都市ブランドを確立するとともにしている。その中で、浜名湖を中心とした施策は、数多く発信されている。しかしながら、浜松城を中心とした発信が足りないように感じている。</p> <p>本年は家康公浜松城築城450年に当たり、さまざまな施策が行われることは聞いているが、普遍的な観光資源の一つであり、年間約20万人の集客がある浜松城をさらに、ブラッシュアップする必要があると考える。</p> <p>そこで、以下4点伺う。</p> <p>(1) 浜松城公園を観光資源としてどのように位置づけているか伺う。</p> <p>(2) 浜松城公園の所管課は観光部局であるべきと思うが考えを伺う。</p> <p>(3) 今年度、浜松城の発掘調査を進めており、出土物を展示する施設が必要と考えるが、浜松城公園長期整備構想を見直す予定はあるのか伺う。</p> <p>(4) 文化財の活用について</p> <p>ア 浜松城を文化財としてどのように生かすのか伺う。</p> <p>イ 地域遺産認定制度は開始から4年目を迎えるが、特徴的なものがあるか伺う。また、今後の展開について伺う。</p>						鈴木市長 " 伊藤花みどり 担当部長 寺田文化振興 担当部長
2 幼児教育・保育の無償化について	<p>昨年10月から、幼児教育・保育の実質無償化が実現した。この制度は、小学校、中学校9年間の普通教育無償化以来、70年ぶりの大改革とも言われている。幼保無償化は9年間の普通教育と同様に、3歳からの教育と保育の質の向上に対して、国と自治体が責任を担う宣言と言える。我々を含む全国の公明党議員は、施行後の昨年11月から12月にかけて、共通の調査票を持ち、関係する当事者の声を聴くべく、幼保無償化に関する実態調査(アンケート)を行った。そこで、本市の利用者、事業者の意見も踏まえ、以下5点伺う。</p> <p>(1) 保育の質の向上イコール人材の育成・確保への支援・</p>						金原こども家庭部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 障害のある子供や医療的ケア児に対する取り組みの強化について伺う。</p> <p>(3) 利用者、事業者の事務負担軽減について伺う。</p> <p>(4) 待機児童への影響と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(5) 公立の幼稚園や保育園の今後のあり方(将来の姿)について伺う。</p>	
3 就職氷河期世代への支援について	<p>就職氷河期世代とは、おおむね1993年から2004年までに学校卒業期を迎えた世代を指している。第二次ベビーブームをもたらした、いわゆる団塊ジュニア世代も含まれる。現在、非正規雇用や無職であることにより、経済的、心理的な負担があり、ひきこもりや、未婚、離婚の要因ともなっていると聞く。現状よりもよい処遇のもとで働くことや社会参加を促すことで、正規雇用を推進するに当たり、「正規雇用を希望していながら不本意に非正規で働く者」「就業を希望しながら、さまざまな事情により求職活動をしていない者」などを支援していく必要がある。</p> <p>そこで、就職氷河期世代への支援の取り組みについて伺う。</p>	渡瀬産業部長
4 若者のU I J ターン就職の促進について	<p>東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯どめをかけ、日本全体の活力を上げる地方創生に向けて全国的に取り組みが行われている。本市においても高校生の進学率は高い水準にあり、首都圏などの大学等に進学する若者は多いが、大学等を卒業後にUターン就職する若者は少ない。地方創生の取り組みの一つとして、学生等の若者のU I J ターン就職を促進することは、地域産業の活力を高めるために必要となっており、奨学金返済支援などもその方策の一つであると考えている。U I J ターン就職の促進には、学生等の若者へ市内企業の情報や魅力を発信するほか、さまざまな方策を実施していると思うが、今後の取り組みについて伺う。</p>	渡瀬産業部長
5 障害者の「超短時間雇用」について	<p>働く能力があるにもかかわらず、障害の状況から長時間安定して働くことのできない障害者がいる。長時間の就労が難しい障害者の社会参加促進のため、週当たり数十分や数時間の非常に短い「超短時間勤務」の雇用形態を創出する取り組みが必要であると思うが、考えを伺う。</p>	朝月健康福祉部長
6 災害時におけるトイレについて	<p>災害時に対する準備として、家具の固定や、飲料水を含む非常食の備蓄、災害情報伝達手段についての啓発が行われているが、人が生きて行く上で、一番大切な排泄の問題が置き去りにされている感がある。災害時におけ</p>	宮城危機管理監

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>7 浜松市防災学習センターの機能拡充について</p>	<p>るさまざまなトイレに関する案内を積極的に普及啓発すべきと思うが考えを伺う。</p> <p>防災学習センターがオープンして、1年3カ月が経過した。防災をテーマに、さまざまな講座が開催され、多くの市民が参加をしていることは、喜ばしいことである。今後も、何度も訪れて学習できるように、体験施設の設置や機能を拡充すべきと思うが考えを伺う。</p>	<p>宮城危機管理監</p>